

聖霊降臨後第22主日特禱（特定24）

主よ、どうかみ民の罪を赦し、豊かなみ恵みにより、弱さのために犯した罪の束縛から解放してください。天の父よ、救い主イエス・キリストのいさおによってお願いいたします。アーメン

旧約聖書 イザヤ書 53章4-12節

53:4 彼が担ったのは私たちの病、彼が負ったのは私たちの痛みであった。しかし、私たちは思っていた。彼は病に冒され、神に打たれて、苦しめられたのだと。5 彼は私たちの背きのために刺し貫かれ、私たちの過ちのために打ち砕かれた。彼が受けた懲らしめによって、私たちに平安が与えられ、彼が受けた打ち傷によって私たちは癒やされた。6 私たちは皆、羊の群れのようにさまよい、それぞれ自らの道に向かって行った。その私たちすべての過ちを、主は彼に負わせられた。7 彼は虐げられ、苦しめられたが、口を開かなかった。屠り場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、口を開かなかった。8 不法な裁きにより、彼は取り去られた。彼の時代の誰が思ったであろうか。私の民の背きのために彼が打たれ、生ける者の地から絶たれたのだと。9 彼は暴虐をなさず、口には偽りがなかったのに、その墓は悪人どもと共にされ、富める者と共に葬られた。10 主は彼を打ち砕くことを望まれ、病にかからせた。彼が自分の命を償いのいけにえとするなら、その子孫を見、長寿を得る。主の望みは彼の手によって成し遂げられる。11 彼は自分の魂の苦しみの後、光を見、それを知って満足する。私の正しき僕は多くの人を義とし、彼らの過ちを自ら背負う。12 それゆえ、私は多くの人を彼に分け与え、彼は強い者たちを戦利品として分け与える。彼が自分の命を死に至るまで注ぎ出し、背く者の一人に数えられたからだ。多くの人を罪を担い、背く者のために執り成しをしたのは、この人であった。

詩編 第22編19—28節

- 19 主よ、遠く離れないでください // わたしの力よ、急いでわたしを助けてください
- 20 わたしの魂を剣から // 命を敵の手から救ってください
- 21 ししのきば、野牛の角から // わたしを助け出してください
- 22 わたしはあなたの名を兄弟に告げ // その集いの中であなたをたたえる
- 23 主を畏れる者は神をたたえ、ヤコブの子孫はみな主をほめよ // イスラエルの子孫はみな神を畏れよ
- 24 神は悩む人の苦しみを軽んぜず、いとわれず // 顔を背けることなく、その叫びを聞き入れられた
- 25 神の恵みによって、民の集いで賛美を献げ // 神を畏れる人びとの前で、わたし

は誓いを果たす

- 26 貧しい人は糧に恵まれ、神を求める人は主をたたえる // いつまでもあなたがたの心は生きるように
- 27 遠く地の果てまで、すべての者が主に立ち帰り // 諸国の民は神の前にひざをかがめる
- 28 わたしたちの国は主のもの // 神は諸国を治められる

使徒書 ヘブライ人への手紙 4章12-16節

4:12 神の言葉は生きていて、力があり、いかなる両刃の剣より鋭く、魂と霊、関節と骨髄とを切り離すまでに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができます。

13 神の前にあらわでない被造物はなく、すべてのものは神の目に裸であり、逃れることはできません。私たちはこの神に弁明しなければなりません。

14 さて、私たちには、もろもろの天を通して来られた偉大な大祭司、神の子イエスがおられるのですから、信仰の告白をしっかりと保とうではありませんか。15 この大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではなく、罪は犯されなかったが、あらゆる点で同じように試練に遭われたのです。16 それゆえ、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜に適った助けを受けるために、堂々と恵みの座に近づこうではありませんか。

福音書 マルコによる福音書 10章35-45節

10:35 ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、願うことをかなえていただきたいのですが。」36 イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、37 二人は言った。「栄光をお受けになるとき、私どもの一人を先生の右に、一人を左に座らせてください。」38 イエスは言われた。「あなたがたは、自分が何を願っているのか、分かっていない。この私が飲む杯を飲み、この私が受ける洗礼(バプテスマ)を受けることができるか。」39 彼らが、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたは、私が飲む杯を飲み、私が受ける洗礼(バプテスマ)を受けることになる。40 しかし、私の右や左に座ることは、私の決めることではない。定められた人々に許されるのだ。」41 ほかの十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て始めた。42 そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、諸民族の支配者と見なされている人々がその上に君臨し、また、偉い人たちが権力を振るっている。43 しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、44 あなたがたの中で、頭になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。45 人の子は、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人々の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」